

## 建設時評

## 積算の国際化

財団法人 建築コスト管理システム研究所  
 主席研究員 岩松 準

去る7月にスリランカのコロomboの高級ホテルで4日間に亘って開催されたPAQSという国際会議に参加する機会を得た。PAQS会議とは、アジア・太平洋地域にまたがる国々の積算職能団体の年次総会である。日本では日本建築積算協会（BSIJ）が公式メンバーとなっている。今年は15回目だが、2003年に第7回会議が東京国際フォーラムを会場

に開催された。SARSが猛威をふるった年と記憶する。

\* \* \*

会議の発端は90年代はじめにさかのぼる。環太平洋のQS（積算士）や関連分野の大学教授による情報交換をきっかけに、94年5月にオーストラリア、香港、日本、ニュージーランド、シンガポールの5カ国（地域）を代表する機関が豪州西岸都市フリーマントルに集まった。この時、日本からは徳永勇雄・明治大学名誉教授がBSIJの代表者として参加、翌95年5月の香港ワークショップでこの集まりをPAQS（Pacific Association of Quantity Surveyors）と称することが決まった。そして、97年6月のシンガポールを皮切りに公式の年次会議がスタートしている。

当初の5カ国に加え、97年にマレーシア、98年に南アフリカ、99年にフィジー、00年にスリランカ、02年に中国、03年カナダ、05年にブルネイ、07年にアメリカ、10年にタイ、インドネシア、11年にフィリピンが参加するようになった。このように参加の輪は広がり、現時点で正会員が10カ国（地域）、それ以外の準会員やオブザーバーが3カ国である。

\* \* \*



写真1 第15回アジア・太平洋積算士協会（PAQS）国際会議（開催地：スリランカ・コロombo）

建設実務における QS の主な職能領域は、プロジェクト・コスト・マネジメント (PCM) とされている。コストを通して建設プロジェクトの管理に貢献するものであり、この意味で PM 的といってよい。会議の目的は端的には、この職能領域において、相互の対話による協力、そして各国特有の教育・ビジネス上の制度的境界を超えた市場交流にあると言えよう。参加団体とそこに属す個人・企業へのメリットが追及される場である。

公式情報ではないが、今回のコロンボでは最大500人程度が参加していた。例年、開催国関係者が多く、外国人は約100人である。理事会メンバーには、大学教授や企業経営に携わる人物も多い。

\* \* \*

会議日程は次のとおり。1日目：教育・相互認証及び研究の2委員会，40歳未満の若手 QS 会議，2日目：理事会（写真1は記念写真），3・4日目：VIP 同席の開催・表彰式典，積算技術関係の基調講演と論文発表。今回は合わせて60程度の発表講演があった。もちろん、歓迎イベント，屋外活動，パーティー等も適度に組まれている。

委員会活動のうち、資格関係では QS 資格の二国間相互認証がある。日本は「建築コスト管理士」を対象に既にシンガポール，香港，カナダ，ニュージーランドと締結済みである。また教育関係では、この QS 資格に繋がる大学教育カリキュラムの認定制度がある。既にアジアの4大学のコースが認証を終えたが、日本の多くの大学は建築士資格に重点を置いた教育が主流のため、ハードルは高い。

\* \* \*

アジアでは植民地時代の影響から英国系のビジネスカルチャーが強い国がある。伝統的な英国式では数量書を元にした建設契約が行われる。そのため、発注側と受注側の双方に QS がついて PCM をやっており、金が絡む問題は QS 同士で解決することも多いようだ。一般に QS の地位や報酬は高く、人気の職業である。日本の積算士のような縁の下の力持ち的存在ではない。そのためか、今回の会議

- ・ RICS (英国王立サーベイヤー協会)
- ・ ICEC (国際コストエンジニア協会)
  - PAQS (アジア・太平洋積算士協会)
  - AAQS (アフリカ積算士協会)
- ・ FIG (国際測量者連盟) の第10委員会
- ・ CEEC (ヨーロッパ建設エコノミスト協会)



図1 世界の QS (積算士) の傘

でもスリランカ，マレーシア，香港などは男女ともに若い参加者が目立った。

QS の国際化は、英国本拠の伝統ある職能団体 RICS が強力に推し進めてきた。数年前から香港を経由して巨大な中国本土の建設ビジネスにも相当の影響を持つようになった。次第に中国の QS 職能や積算ルールは英国的なものに置き換わりつつあるようだ。

図1は QS 職能の世界の見取り図である。RICS は純粋な英国の機関だが世界各地に支部を持つ。他はいずれも専門職能団体の国際的な連合組織である。ICEC は1976年以降の活動開始でコスト・エンジニア (CE)，QS，PM の職能領域をカバーする。今では世界4地域の計40機関にまたがる。PAQS はその第4地域と平行で、2年に一度理事会が合同開催となる。日本の BSIJ は PAQS，ICEC に参加している。

\* \* \*

こうした世界的広がりを知ると、日本の建築積算基準類やその職能教育や資格制度の仕組みは、世界的には特殊な位置づけにあるのでは、という気分におそわれる。建設ビジネスの国際化に日本の積算職能者はどう立ち向かうべきなのだろうか。